令和２年度　　教 文 第 42 号

石動中学校グラウンド夜間照明高圧受電設備工事

工 事 実 施 設 計 書

小 矢 部 市

特　記　仕　様　書　①

工事名：石動中学校グラウンド夜間照明高圧受電設備工事

第1条　　一般

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編(平成 31 年版))、公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編(平成 31 年版))及び国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修の公共建築設備工事標準図(電気設備工事編(平成 31 年版))によるものとする。

第2条　　現場代理人の工事現場における常駐を要しない期間

1　次のいずれかに該当し、かつ、発注者との連絡体制が確保されると認めた場合には、工事現場における常駐を要しない期間として取り扱うものとする。

①　契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間

②　工事の全部の施工を一時中止している期間

2　前項の期間を確認する必要が生じた場合は、書面によることとする。

第3条　　安全管理

工事期間中は、安全管理要員等を配置し、工事区域内全般の巡視、点検、連絡調整等を行い安全確保に努めなければならない。

第4条　　安全対策

一般交通箇所の施工にあたっては交通誘導員を１名以上配置し、一般交通等に支障を及ぼさないよう十分注意して施工するものとする。

第5条　　工事調整

別途発注する次の工事及び石動中学校と調整、協力のうえ円滑に工事を進めること。

〈関連工事（担当課：文化スポーツ課)〉

・総合会館（市民会館）解体工事　（11 月発注予定）

第6条　　工事条件

工事車両の進入時間は、午前８時 30 分以降とし、最徐行での通行とする。

第7条　　地場産品の優先使用

　本工事に使用する資材等は、品質が水準以上であり、かつ価格が適正である場合には、県内地産品を優先使用するものとする。

第8条　　工事材料の確認

　主要材料については、事前に使用資材届を提出するとともに、監督員の段階確認を受けて使用するものとする。

第9条　　下請関係の適正化

　本工事を下請に付す場合は、「施工体制の適正化及び一括下請負の禁止の徹底等について」を遵守すること。

第10条　社内検査の実施

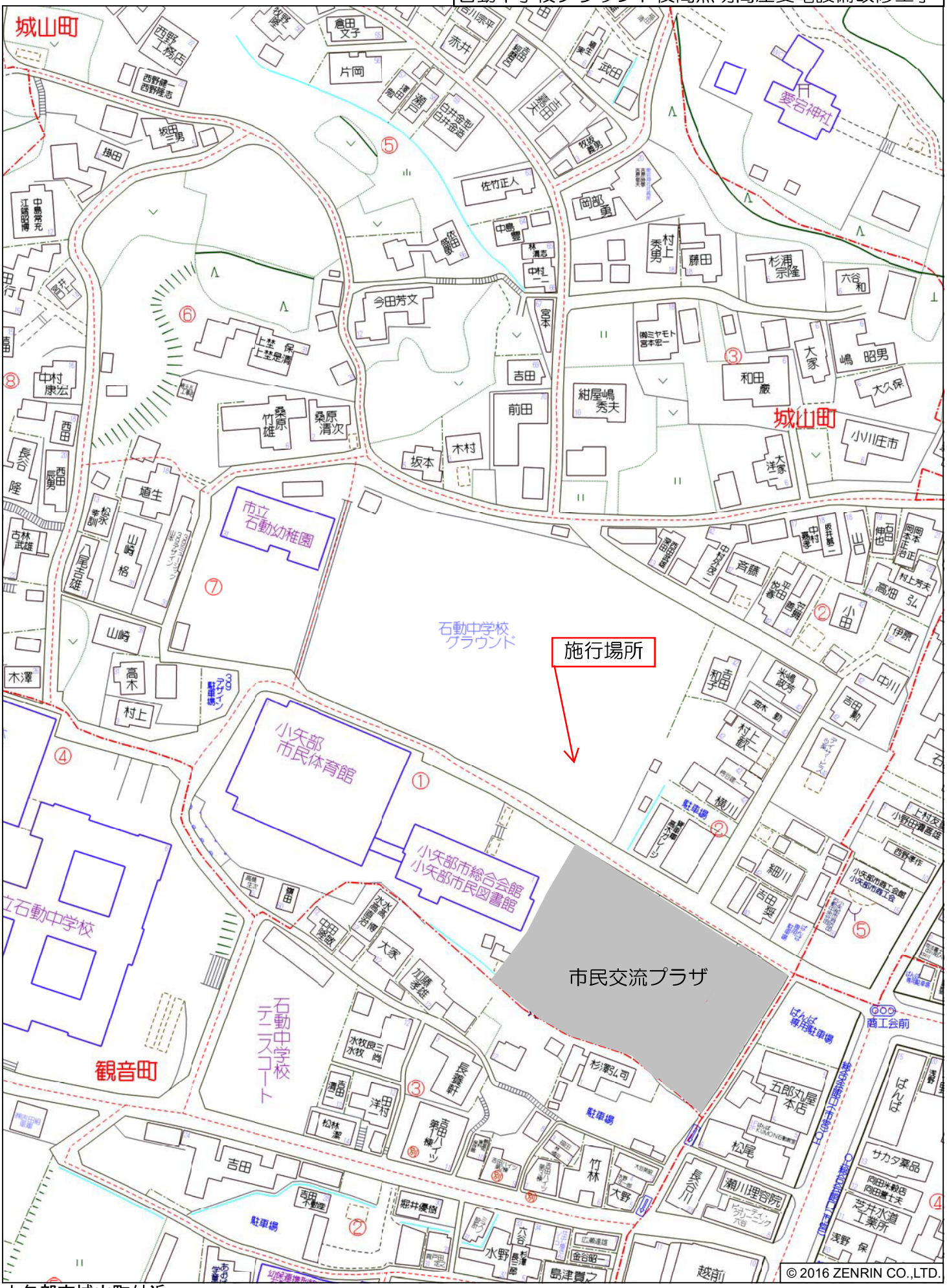
　受注者は、工事の途中段階及び完成時において、発注者の検査前に社内検査を実施するものとし、時期・内容等について施工計画書に記載すること。また、実施結果について監督員に提示するものとする。

第11条　その他

　その他、定めがない事項について疑義が生じた場合は、その都度監督員と協議するものとする。

201605小矢部市［小矢部市 22図 E-5］

石動中学校グラウンド夜間照明高圧受電設備改修工事



小矢部市城山町付近

縮尺 1 / 1,500　45m

石動中学校グラウンド夜間照明
高圧受電設備工事

図面リスト	
E-00	表紙・図面リスト
E-01	特記仕様書②
E-02	単線結線図
E-03	配置図
E-04	フェンス詳細図

株式会社　中川建築設計事務所
本社　住所　〒933-0041　富山県高岡市城東２丁目１番２７号
ＴＥＬ　0766-21-1060　ＦＡＸ　0766-21-1371
管理建築士　一級建築士　登録第１４５４８１号　大屋谷　良一

工事名	石動中学校グラウンド夜間照明高圧受電設備工事	年月日	設計者	検図	製図
図面名称	表紙・図面リスト	縮尺 A1 1：20 A3 1：40	一級建築士 登録第145481号 大屋谷 良一		

設計番号	20021
図面番号	E-00

・電気設備　工事種目（○印をつけたものを適用する。）

・電灯設備　・動力設備　・雷保護設備　⊙ 受変電設備
・電力貯蔵設備　・発電設備　・構内交換設備　・情報通信網設備
・映像音響設備　・拡声設備　・誘導支援設備　・テレビ共同受信設備
・監視カメラ設備　・防犯・入退室管理設備　・火災報知設備　⊙ 構内配電・通信経路

⊙ 電気設備

① 呼び線及び予備配管
長さ1m以上の入線しない管路には、1.2mm以上のビニル被覆鉄線を入線する。埋込分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器4個以下の場合(25)を1本、5個の場合(25)を2本、天井まで立上げる。

② 電線本数、管路等
分電盤、制御盤及び端子盤等の二次側以降配線経路は、電線太さ、電線本数及び管径等は監督職員の承諾を受けて変更しても差し支えない。
また、機械室等の床配線は図面上PF管で記載している場合であっても、立上部分等の露出配管部分は金属管とし、その場合は全長にわたって接地線を設ける。

③ 金属管の塗装
1 次の箇所の露出配管は塗装を行う。
⊙ 屋外　・屋内（　　）
2 次の箇所の露出配管は塗装不要とする。
・機械室内　・（　　）

4 フラッシュプレート
・新金属製　・ステンレス製　・樹脂製

5 再使用機器
取外し再使用機器は清掃、絶縁測定のうえ取付ける。

6 保温、結露防止
外気に面する壁・天井で、内断熱施工される構造体のコンクリートに埋込むボックス等には、断熱材等を取り付ける。

⑦ 高圧交流遮断器
操作方式（・電気操作方式　⊙ 手動ばね操作方式　）

⑧ 消火器
適用範囲（⊙ 受変電設備　・発電設備　）
⊙ ABC粉末消火器　10 号　1 本
⊙ 消火器収納箱　1 本入　1 個　（・鋼板製　⊙ SUS製 ）
⊙ 表示板　（・鋼板製　・SUS製　・アルミ製 ）

9 電話機への配線
・内線電話機1台につき、EM-TIEF0.65-2Cを2mを見込む。
・ボタン電話機1台につき、電子ボタン電話用ケーブルEM-EBT0.4-4Cを2mを見込む。

10 火災報知設備用総合盤
・消火栓箱(別途)に組込　・専用

11 ガス漏火災警報装置
ガス種類　・都市ガス　・LPガス
監視方式　・個別式　・集中監視式
・受信機(　型　級　回線)　・火報盤と一体　・単独

12 ハンドホール
・標準図による(蓋は富山県章入りとする)

⑬ 地中埋設標等
(1)地中埋設標　⊙ 要（図示による）　・不要
(2)埋設表示テープ　⊙ 要　・不要

⑭ 取付高さ
壁付、壁掛形の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として下表による。

名　称	測　点	取付高[mm]
ブラケット（一般）	床上～中心	2,100
〃　（踊場）	〃	2,500
〃　（鏡上）	鏡上端～中心	150
スイッチ（一般）	床上～中心	1,200
〃　（多機能便所用）	〃	1,200
ｺﾝｾﾝﾄ,電話用ｱｳﾄﾚｯﾄ,ﾃﾚﾋﾞ端子（一般）	〃	400
〃　（和室）	〃	150
〃　（台上）	台上～中心	150
ｺﾝｾﾝﾄ（土間）	床上～中心	800～1,300
引込開閉器箱（低圧）	床上～上端	1,500
分電盤,制御盤,実験盤	床上～中心	1,500(上端1,900以下)
開閉器箱	〃	1,500
電磁開閉器用押しボタン	〃	1,200
接地用端子箱	地上,床上～中心	500
試験用接続端子箱	床上～下端	800
接地極埋設標	地上～中心	600
給油ボックス	地上～給油口	1,000
室内端子盤（廊下・室内）	床上～下端	300
中間端子盤（EPS・電気室）	床上～中心	1,500
壁付電話機	〃	1,300
親時計	〃	1,500(上端1,900以下)
子時計,スピーカ	天井下～上端	100
アッテネータ	床上～中心	1,200
表示盤	天井下～上端	100
発信器（出退表示用）	床上～中心	1,200
外部受付用インターホン（子機）	〃	標準図による
壁付インターホン（上記以外）	〃	1,100
呼出ボタン（多機能便所用）	〃	900
復帰ボタン（　〃　）	〃	1,300
廊下表示灯（　〃　）	〃	2,000
テレビ機器収容箱	天井下～上端	200
火報受信機（複合盤）	床上～操作部	800～1,500
副受信機	床上～中心	1,500
自動通報機器収容箱	〃	800～1,500
発信機	〃	800～1,500
警報ベル	〃	(天井高)×0.9
表示灯	〃	(天井高)×0.8
連動制御器（自動閉鎖）	〃	1,500
ガス漏れ検知器（重ガス）	〃	300
〃　（軽ガス）	天井面～中心	(天井高)-200

（備考）　天井面を基準とする取付高は、天井高さが2,500mmから3,000mmの場合に適用する。
天井高さが3,000mm以上の場合及び機器の使用に支障が生じる場合は、監督員と協議する。

16 電線類
二重床内に配線するEM-UTPケーブルは、用途に応じ色分けすること。

17 二重床内器具
二重床内に設置する器具の位置表示としてマーキングを、直上の天井面につけること。また、用途に応じ色分けすること。

・給排水衛生設備　工事種目(○印をつけたものを適用する。)

・衛生器具設備　・給水設備　・排水設備　・給湯設備
・消火設備　・消火器設備　・厨房設備　・ガス設備
・さく井設備　・融雪設備　・浄化槽設備

・衛生器具設備

1 衛生器具付属水栓　水抜栓を使用する場合、水栓は固定こまとする。
2 洗面器　手洗器は止水栓付とする。
3 衛生器具ユニット　別図による。（ユニット内配管材料共）
4 浴室・シャワーユニット　別図による。
5 和風大便器耐火カバー　・設計る（ピット内は除く）　・設計しない

・給水設備

1 給水方式
・上水（・水道直結　・高置水槽　・圧力水槽　・加圧給水 ）
・井水（・高置水槽　・圧力水槽　・加圧給水 ）

2 配管材料
給水引込管は水道事業者の指定によるものとし、材質は（・図示　・　　）とする。
屋内配管　・ポリ粉体鋼管（SGP-PB）　・塩ビライニング鋼管（SGP-VB）
地中埋設配管　・ポリ粉体鋼管（SGP-PD）　・塩ビライニング鋼管（SGP-VD）
・耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）
給水管の最小口径は20mmとする。
井水管の吊りバンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用する。

3 量水器
・親メーター（・貸与品　・　　）　・子メーター（・買取り　・　　）

4 量水器桝
・水道業者指定品（・貸与品　・買取り）　・標準図MC型

5 弁類
・逆止弁の衝撃吸収ではライニング不要とする。
・ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする。
図面に記載のない場合の耐圧は下記による。
水道直結部分　JIS又はJV（・5K　・10K ）
その他の部分　JIS又はJV（・5K　・10K ）

6 弁桝
・標準図による。

7 絶縁継手
図示の位置に取り付ける。

8 水栓
・台所流し用の水栓は泡沫式とする。
・水抜栓を使用する場合、水栓は固定こまとする。（・ただし屋外に設ける場合は耐寒水栓とする ）

9 水栓柱　・合成樹脂製　・

10 引込納付金等　・要（・別途　・本工事 ）　・不要

・排水設備

1 排水方式
汚水放流先　（・公共下水　・浄化槽　・　　）
雑排水放流先（・公共下水　・合併処理浄化槽　・側溝等　）
化学排水　（　　）

2 配管材料
雑排水　・配管用炭素鋼鋼管（SGP-白）
・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管（DVLP）
・硬質塩化ビニル管（VP）　・耐火二層管（VP）
汚水　・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管（DVLP）
・硬質塩化ビニル管（VP）　・耐火二層管（VP）
通気　・配管用炭素鋼鋼管（SGP-白）　・硬質塩化ビニル管（VP）　・耐火二層管（VP）
屋外排水　・硬質塩化ビニル管（VU）　・硬質塩化ビニル管（VP）
・遠心力鉄筋コンクリート管(B型)

3 洗面器等の排水管
・洗面器及び洗面器に直結する排水管寸法は、器具トラップより1サイズアップとする。
・流し台等の床上露出部の配管は、乾腐管の使用は禁止とする。

4 満水試験継手　図示の位置に取り付ける。

5 放流納付金等　・要（・別途　・本工事 ）　・不要

・給湯設備

1 配管材料　・一般配管用ステンレス鋼鋼管（呼び径60Su以下は拡管式）　・銅管（硬質(M)）
2 絶縁継手　取り付ける（鋼製ボイラ、熱交換器などに異種金属管を接続する場合）
3 弁類　図面に記載のない場合の耐圧は、JIS又はJV 5Kとする。
・ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。

4 ガス湯沸器　使用するガス（・都市ガス　・液化石油ガス ）

5 ガス湯沸器の接続
給湯管及び給水管の接続は、ステンレス製フレキシブルチューブを使用してよい。

6 保温
湯沸器の給排気筒（二重管）の隠ぺい箇所は保温を行う。なお、保温の種別は標準仕様書第2編3.1.5表2.3.5のh-(4)-DCとする。

・消火設備

1 消火設備の種類
・屋内消火栓　・連結送水管　・屋外消火栓　・スプリンクラー
・不活性ガス消火　・泡消火　・粉末消火　・連結散水
・フード等用簡易自動消火

2 配管材料
・配管用炭素鋼鋼管（SGP-白）
・圧力配管用炭素鋼鋼管（STPG 370 白管 Sch80）（不活性ガス消火）
・消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（SGP-VS）（地中配管用）

3 保温
原則として保温は行わない。ただし、屋外露出配管（弁類含む）は防凍保温を行うものとし、仕様は給水管の項による。

4 地中埋設標等
1 地中埋設標　・要（図示による）　・不要
2 埋設表示テープ　・要　・不要

・消火器設備

1 機械室
・ABC粉末消火器　号　本
・消火器収納箱　本入　個（・鋼板製　・SUS製 ）
・表示板（・鋼板製　・SUS製　・アルミ製 ）

2 貯油槽施設
・ABC粉末消火器　号　本
・消火器収納箱　本入　個（・鋼板製　・SUS製 ）
・表示板（・鋼板製　・SUS製　・アルミ製 ）

・厨房設備

1 システム
・ドライシステム　・

2 機器の寸法　概略寸法とする。

3 機器機能等　図示による。

・ガス設備

1 使用ガス　・都市ガス（発熱量：　MJ/Nm3 ）　・液化石油ガス

2 配管材料
・配管用炭素鋼鋼管（SGP-白）　・圧力配管用炭素鋼鋼管（STPG）
・ポリエチレン被覆鋼管（PLS）（地中配管用）
・ガス用ポリエチレン管（PE）（地中配管用・ロケーティングワイヤー共）

3 ガス集合装置
・本工事（　本組）　・別途工事
・標準図「液化石油ガス容器廻り配管要領」による　・設計図による

4 ガスメーター　・本工事　・貸与

5 充てん容量　別途（・50kg　・　　）×　本

6 転倒防止等　標準図「液化石油ガス容器転倒防止施工要領」の（・(a)　・(b) ）による。

7 地中埋設標　設置する（埋設シート共）

8 漏洩検知装置　・要　・不要

9 電気防食　・要　・不要

10 引込負担金　・要（・別途　・本工事 ）　・不要

・融雪設備

1 配管材料　送水管　・
散水管　・

2 ノズル・ドレン　材質は　　とし、形式は図示による。

3 弁類　・図示による　・図面に特記のない場合の耐圧は、JIS又はJV 5Kとする。

・浄化槽設備

1 対象人員及び型式等　図示による。

2 消毒剤　1ヶ月相当分以上を納入する。

3 試験運転調整　浄化槽使用開始3ヶ月後、1回放流水質の測定結果を報告する。

・空調設備　工事種目(○印をつけたものを適用する。)

・空気調和機設備　・空調ダクト設備　・ボイラー及び付属機器設備　冷熱機設備
・換気設備　・換気ダクト設備　・排煙設備　・排煙ダクト設備
・自動制御設備

・空気調和設備

1 設計温湿度

	外気		室内			
			一般系統			
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
夏季	34.9 ℃	55.8 %	℃	%	℃	%
冬季	-1.0 ℃	72.3 %	℃	%	℃	%

2 煙道
(1) 付属物　伸縮継手、掃除口の取付位置は図示による。
(2) ばいじん濃度計　ばいじん量測定口は口径80mmとし、取付け位置は煙道の直線部分とする。

3 ダクト
・低圧ダクト（・ｱﾝｶﾞｰｶﾌﾗﾝｼﾞ工法　・ｺｰﾅｰﾎﾞﾙﾄ工法（・共板ﾌﾗﾝｼﾞ　・ｽﾗｲﾄﾞｵﾝﾌﾗﾝｼﾞ ））
・高圧1ダクト（適用範囲は図示による）
・ステンレスダクト及び塩化ビニルダクトの仕様及び適用範囲は図示による。
・取付位置は図示による。
・次の位置に取付ける。（・外気ダクト　・還気ダクト　・空調機の吐出、吸込ダクト　・分岐ダクト ）

4 風量測定口

5 チャンバー
1 内貼を施すチャンバーの表示寸法は外寸法を示す。
2 空気調和機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及びダクト系で消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設ける。点検口の大きさは図示による。
3 外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーには排水管(呼び径20)を取付け、屋外又は間接排水口に導く。

6 ダンパー
1 防煙ダンパー　復帰方式（・遠隔　・　）
煙感知器、連動制御器及び配管配線は（・別途　・本工事 ）とする。
2 ピストンダンパー　復帰方式（・遠隔　・　）

7 配管材料
冷温水管　・配管用炭素鋼鋼管（SGP-白）
冷却水管　・SGP-VA　・SGP-PA　・SGP-白
油管　・配管用炭素鋼鋼管（SGP-黒　屋内配管）
・合成樹脂外面被覆配管用炭素鋼鋼管（PLP　地中埋設）
蒸気往管　・配管用炭素鋼鋼管（SGP-黒）
蒸気還管　・圧力配管用炭素鋼鋼管（STGP370　黒管　Sch40）　・ステンレス鋼管（SUS304）
膨張管　・配管用炭素鋼鋼管（SGP-白）
冷媒管　・断熱材被覆銅管　・銅管
ドレン管　・VP管　・耐火二層管　・配管用炭素鋼鋼管（SGP-白）
・図示による　・図面に特記なき場合の耐圧は、JIS又はJV 5Kとする。
・銅管用伸縮管継手の種類は図示による。
・ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。

8 弁類

9 温度計
次の位置に取り付ける。なお、温度計は円形指示計とする。
・冷凍機の冷水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り）
・吸収冷温水機の冷温水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り）
・ボイラーの温水管（返り）
・空気調和機の冷温水管（送り、返り）及び三方弁装置後の冷温水管（返り）
・熱交換器の温水管（送り、返り）
・冷温水ヘッダー(往)冷温水ヘッダーの各返り管
・空気調和機(パッケージ型を含む)のサプライチャンバー、レタンダクト、外気取り入れダクト及びレタンチャンバー

10 圧力計
次の位置に取り付ける。
・冷凍機の冷水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り）
・空気調和機の冷温水管（送り、返り）
・吸収冷温水機の冷温水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り）
・熱交換器の温水管（送り、返り）

11 瞬間流量計又は瞬間流量計取付用タッピング
次の管に取り付ける。なお、瞬間流量計はピトー管方式によるもので止水コック付とする。
・冷凍機の冷水管及び冷却水管（送り又は返り）に（・流量計 ・タッピング）を設ける。
・吸収冷温水発生機の冷温水管及び冷却水管（送り又は返り）に（・流量計・タッピング）を設ける。
・空気調和機の冷温水管（送り又は返り）に（・流量計 ・タッピング）を設ける。
・冷温水ヘッダーの（・各送り管 ・各返り管）に（・流量計 ・タッピング）を設ける。

12 油面制御装置　制御盤には（・遠隔警報　・電磁弁制御　・　　）の端子を設ける。
なお、フロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする。

13 遠隔油量指示計　図示の位置に取り付ける。

14 絶縁継手　図示の位置に取り付ける。

15 保温及び遮音
1 材料・施工順序及び厚さは特記がなければ標準仕様書第2編第3章の表2.3.1～2.3.7による。なお、保温材は原則としてグラスウール保温材を使用するものとし、温水・蒸気・給湯以外の暖房内（ピット内を含む）及び屋外多湿箇所はポリスチレンフォーム保温材を使用するものとする。また、排煙ダクト及び煙道はロックウール保温材を使用するものとする。
2 合成樹脂製カバーは、（・シートタイプ　・ジャケットタイプ ）を使用するものとする。
3 井水管の保温種別については冷水管の保温種別によるものとする。
4 標準仕様書第2編3.1.4によるほか、下記による。
・外気取入ダクトの保温要（・全て　・　）
・排気ダクトの保温要（・外壁から1m　・　）
・返りダクトの保温要
・隠蔽ダクトのフランジ部(補強を含む)は厚さ25mmの保温を重ね巻きを行うか、保温厚さをフランジ高さ+10mm以上とする。
・チャンバー及びダクトの消音内貼り(図示個所)を施した部分は外部の保温を不要とする。
・暖房する室(天井内含む)の蒸気立管及び分岐管は保温を施す。
・建物内の空気抜き弁までの配管の保温は、(2.3.1.4)の温水管の項による。
・空気調和機及びファンコイルユニットの排水管の保温は、(2.3.1.5)の排水管の項による。
・露出部の冷媒管の外装は（・図示　・保温化粧ケース　・SUSラッキング）とする。
屋外に保温化粧ケースを使用する場合は、ケース内に水が侵入しないよう必要に応じてシールする。
SUSラッキング内部はポリスチレンフォーム保温筒で保護する。

16 弁類の保護カバー
温水、蒸気、冷水、冷温水用の配管で呼び径65以上の弁、ストレーナ等は、ビス等により容易に着脱できる金属製のカバーによる外装を施す。なお、屋内用は（・カラー亜鉛鉄板　・　　）、屋外及び多湿箇所は（・ステンレス鋼板　・　　）とする。

・換気設備

1 ダクト
・低圧ダクト（・ｱﾝｶﾞｰｶﾌﾗﾝｼﾞ工法　・ｺｰﾅｰﾎﾞﾙﾄ工法（・共板ﾌﾗﾝｼﾞ　・ｽﾗｲﾄﾞｵﾝﾌﾗﾝｼﾞ ））
・厨房系統の排気用ダクトは、標準仕様書第3.2.2のダクトの板厚の項より1番手厚いものを使用する。
図示した位置に取り付ける。

2 風量測定口
空気調和設備の当該項目による。

3 ダンパー
空気調和設備の当該項目による。

4 シールする排気ダクトの系統
・厨房系統　・浴室（シャワー室、脱衣室を含む）系統

5 チャンバー
空気調和設備の当該項目による。

6 保温
次のダクトは保温を行う。
・外気ダクト（図示なき場合は全て。全熱交換ユニットの二次側含む。）
・多湿箇所のダクト（範囲は図示による。）
・排気ダクトの保温要（範囲は（・外壁から1m　・図示による。））

7 24時間換気
各居室において、換気量を測定し、必要換気回数以上であることを確認し、監督職員に報告すること。

・排煙設備

1 ダクト
・亜鉛鉄板　・普通鋼板(厚1.6m)

2 排煙口の形式
図示による。

3 排煙口開放及び復帰方式
・電気式（遠隔操作　・要　・不要）　・ワイヤー式

4 排煙風量測定
建築設備定期検査業務基準書（2016年版）（(一財)日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方法に準じる。

・自動制御設備

1 システム構成その他
図示による。

2 電気計装用機材
1 使用する電線類はEM電線とし、規格は標準仕様書第4編表4.1.11による。（機器、盤類を除く。）
2 屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。
3 天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。

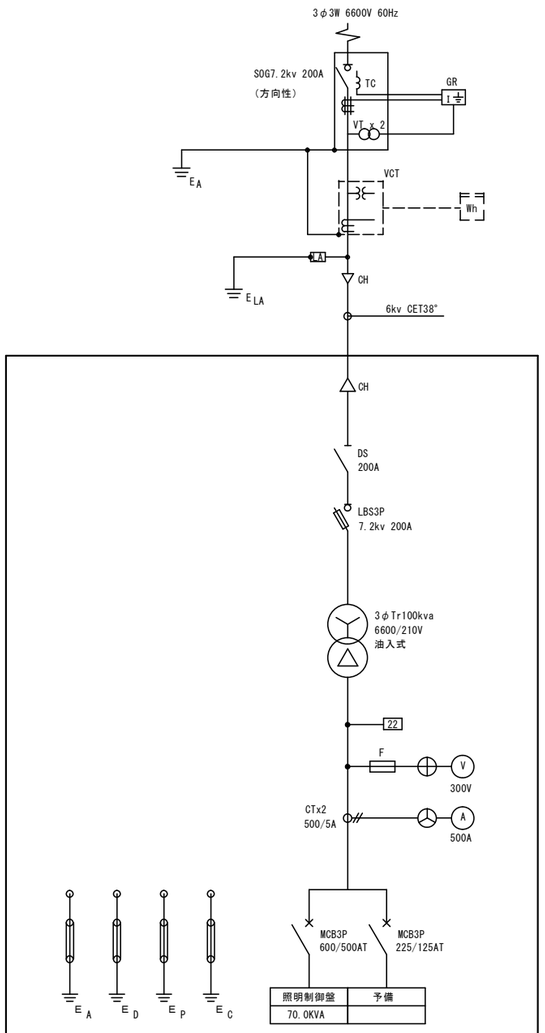
・消火器設備

1 機械室
・ABC粉末消火器　号　本
・消火器収納箱　本入　個（・鋼板製　・SUS製 ）
・表示板（・鋼板製　・SUS製　・アルミ製 ）

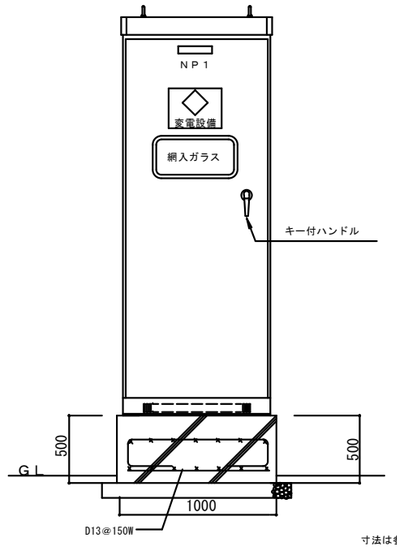
2 貯油槽施設
・ABC粉末消火器　号　本
・消火器収納箱　本入　個（・鋼板製　・SUS製 ）
・表示板（・鋼板製　・SUS製　・アルミ製 ）

株式会社 中川建築設計事務所 住所　富山県小矢部市綾子５２３９番地 小矢部事務所　所長　中川　潔 管理建築士　一級建築士 登録第１４５４８１号　大舘谷 良一	工事名　石動中学校グランド夜間照明高圧受電設備工事	年月日	設計者 一級建築士　登録第145481号 大舘谷　良一	照査	担当
	図面名称　特記仕様書②	縮尺			

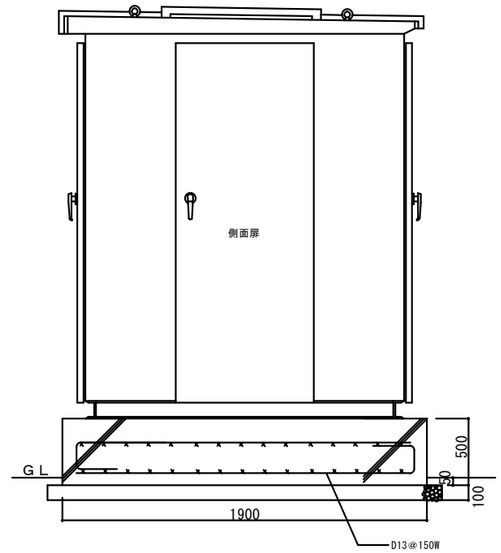
設計番号	20021
図面番号	E-01



屋外型キュービクル

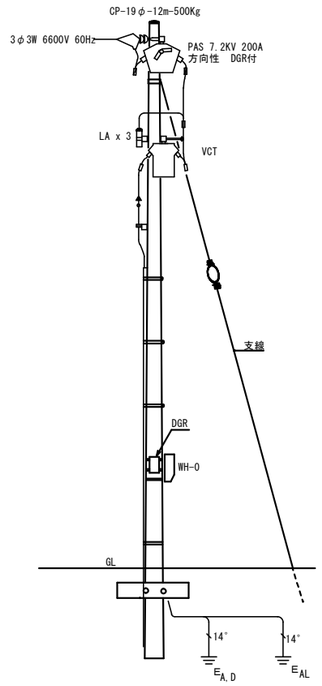


正 面 図

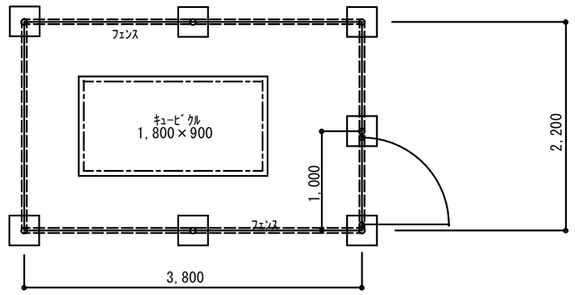


右 側 面 図

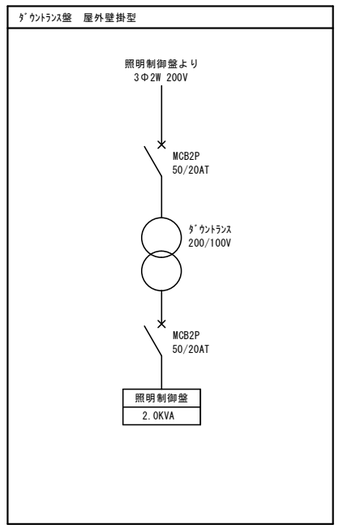
寸法は参考とする
屋外型 ｷｭｰﾋﾞｸﾙ
ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎(建築工事) とする)
フェンス (2200 x 3700) (ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎含む) 取付(寸法は参考とする)



引込柱装柱図



平面図 1/30



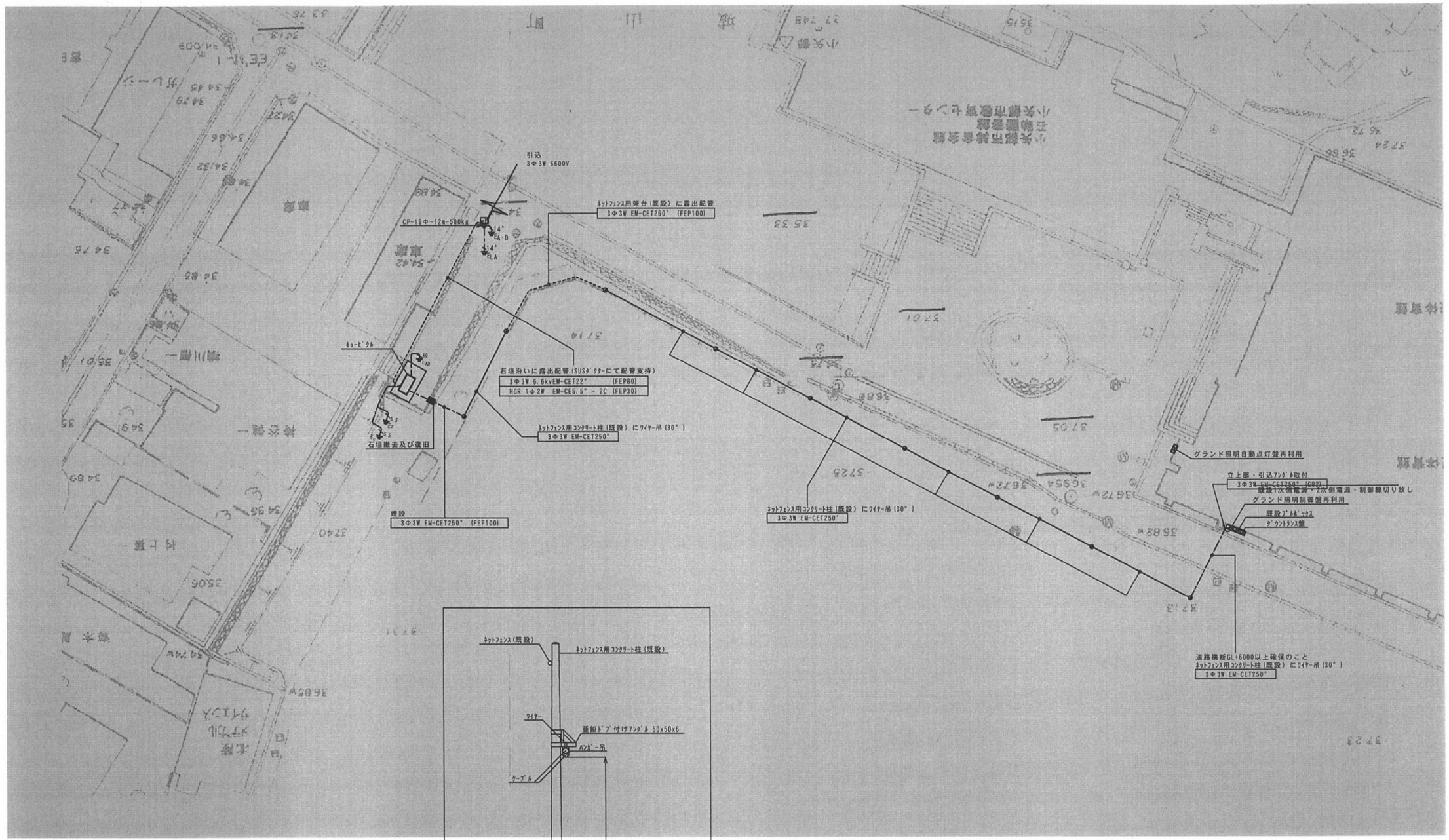
特記事項

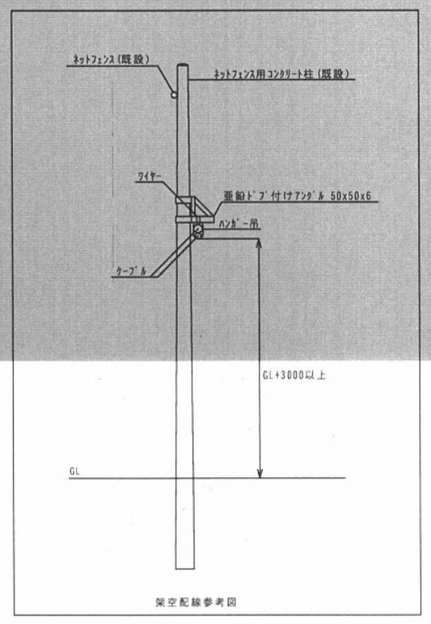
1・キュービクルは、日本電気協会推奨品とする。
2・チャンネルベースは、底板付とする。又亜鉛ドブ漬け仕上とする。
3・備品・予備品は下記とする。
3-1) ランプヒューズ (使用数と同数)
3-2) 電力ヒューズ (使用数と同数)
3-3) フック棒 (1本)
4・キュービクル基礎は、建築工事とする。
5・函体の寸法は製作図より協議の上決定する。
6・変圧器は防振ゴム取付とする。
7・低圧遮断器は埋込型フラッシュプレート付とする
8・粉末消火器10型1台設置する (収納箱含む)
9・その他
・キュービクル異常 (漏電警報) を一括ｷｭｰﾋﾞｸﾙ箱外部にﾊﾟﾄﾗｲﾄ取付警報する
・フェンス取付(建築工事)

株式会社 中川建築設計事務所
住所 富山県小矢部市綾子５２３９番地
小矢部事務所 所長 中川 潔
管理建築士 一級建築士 登録第１４５４８１号 大館谷 良一

工事名	石動中学校グランド夜間照明高圧受電設備工事	年月日	設 計 者	照 査	担 当
図面名称	単線結線図	縮尺	一級建築士 登録第145481号 大館谷 良一		

設計番号	20021
図面番号	E-02



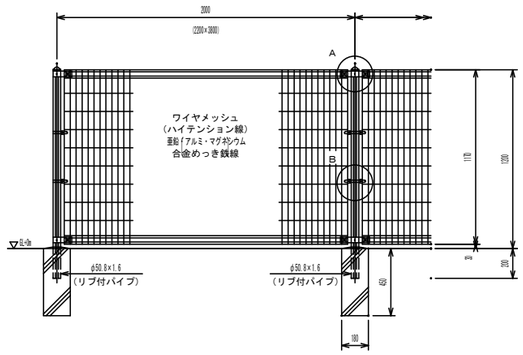


架空配線参考図

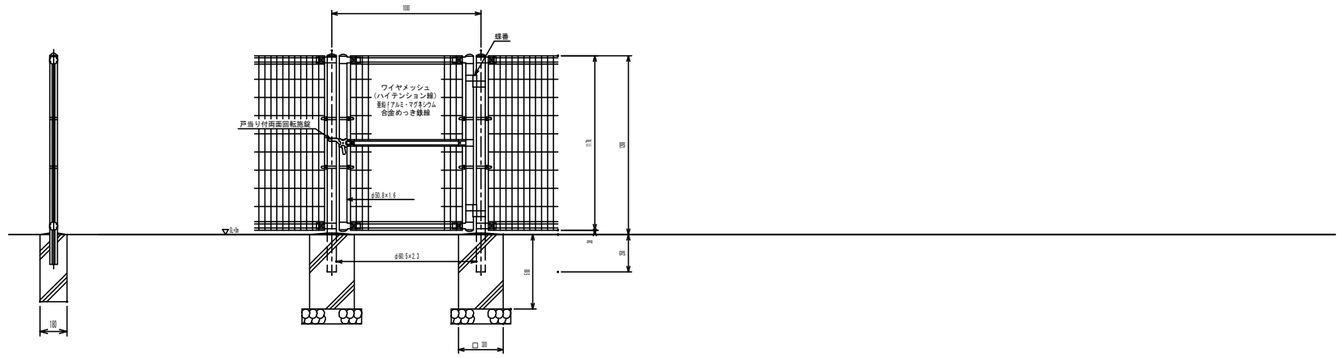
株式会社 中川建築設計事務所 住所 富山県小矢部市綾子5239番地 小矢部事務所 所長 中川 潔 管理建築士 一級建築士 登録第145481号 大嶋谷 良一	工事名	石動中学校グランド夜間照明高圧受電設備工事	年月日	設計者 一級建築士 登録第145481号 大嶋谷 良一	照査	担当
	図面名称	配置図	縮尺 A1:1/200 A3:1/400			

設計番号	20021
図面番号	E-03

受変電設備周囲フェンス詳細図　　朝日フェンス　UN　-A形　　1/20



ＵＮ－Ａ１２００Ｌ－４０　　S=1:20



ＵＮ片開き門扉
Ｈ１２００－４０×Ｗ１０００　　S=1:20

株式会社　中川建築設計事務所 本社　住所　〒933-0041　富山県高岡市城東２丁目１番２７号 ＴＥＬ　0766-21-1060　ＦＡＸ　0766-21-1371 管理建築士　一級建築士　登録第１４５４８１号　大脇谷　良一	工事名 石動中学校グラウンド夜間照明高圧受電設備工事 図面名称 フェンス詳細図	年月日 縮尺　A1　1：20 A3　1：40	設計者 一級建築士　登録第145481号 大脇谷　良一	検図	製図	設計番号　20021 図面番号　E-04

令和２年度　　小矢部市役所

課長	課長補佐	設計	精算	浄書

設　　計　　書

小矢部市 城山町 地内

石動中学校グラウンド夜間照明高圧受電設備工事

設計額　　円　（うち消費税及び地方消費税相当額　　円）

工事 大要	石動中学校グラウンド夜間照明高圧受電設備工事 ・高圧受電設備 屋外型キュービクル　N=1.0台 ・構内配電ケーブル　L=116.0m ・基礎工事　N=1.0式 ・メッシュフェンス　L=14.0m 工　期：契約締結の翌日から令和２年3月26日まで

直接工事費内訳書

番号	名称	形式・仕様・寸法	数量	単位	単価	金額	備考	特専工事
	石動中学校グラウンド夜間照明高圧受電設備工事							
1	高圧受電設備		1.0	式				
2	構内配電設備		1.0	式				
3	基礎工事		1.0	式				
4	フェンス工事		1.0	式				
	合　　計							

直接工事費内訳書

番号	名称	形式・仕様・寸法	数量	単位	単価	金額	備考	特専工事
1	高圧受電設備							
	電線管	FEP30　露出	30.0	m				
	電線管	FEP80　露出	30.0	m				
	電線	EM-IE5.5°　管内	33.0	m				
	電線	EM-IE14°　管内	16.0	m				
	電線	EM-IE60°　管内	4.0	m				
	ｹｰﾌﾞﾙ	6kVEM-CET22°　FEP管内	30.0	m				
	ｹｰﾌﾞﾙ	EM-CE5.5°　－　2C　FEP管内	30.0	m				
	引込開閉器盤	WH-0	1.0	面				
	高圧気中開閉器	PAS 200A	1.0	台				
	避雷器	LA 8.4KV	3.0	個				
	高圧受電ｷｭｰﾋﾞｸﾙ	屋外型	1.0	式				
	引込柱	19Φ-12m	1.0	式				
	A種接地工事	銅板式	1.0	式				
	A種接地工事	3連打込み式	2.0	式				
	補助接地工事	単打込み式	2.0	式				
	接地極埋設標	黄銅製	3.0	枚				
	端末処理材	6kVEM-CET22°　屋内	1.0	個				
	端末処理材	6kVEM-CET22°　屋外	1.0	個				
	小　計							

直接工事費内訳書

番号	名称	形式・仕様・寸法	数量	単位	単価	金額	備考	特専工事
2	構内配電設備							
	電線管	FEP100　土中	7.0	m				
	電線管	FEP30　露出	4.0	m				
	電線管	FEP100　露出	16.0	m				
	電線管	G92　露出 塗装有	3.0	m				
	ｹｰﾌﾞﾙ	EM-CE5.5°－3C　FEP管内	4.0	m				
	ｹｰﾌﾞﾙ	EM-CET250°　FEP管内	20.0	m				
	ｹｰﾌﾞﾙ	EM-CET250°　管内	6.0	m				
	ｹｰﾌﾞﾙ	EM-CET250°　ﾊﾝｶﾞｰ吊	86.0	m				
	ﾜｲﾔｰ30°	架空	86.0	m				
	引込ｱﾝｸﾞﾙ		1.0	個				
	ﾜｲﾔｰ吊金具		9.0	ｹ所				
	ﾀﾞｳﾝﾄﾗﾝｽ盤		1.0	面				
	土工事	根切り	3.0	m3				
	土工事	埋戻し	3.0	m3				
	埋設表示ｼｰﾄ	150mmﾀﾞﾌﾞﾙ	7.0	m				
	重機運搬費		1.0	往復				
	小　計							

直接工事費内訳書

番号	名称	形式・仕様・寸法	数量	単位	単価	金額	備考	特専工事
3	基礎工事							
	やり方		4.0	ヶ所				
	墨出し		8.1	m2				
	養生		8.1	m2				
	根切り		0.4	m3				
	砕石地業		0.3	m3				
	埋め戻し		0.1	m3				
	発生土処分	場内処分　敷き均し	0.1	m3				
	整理清掃片付け		8.1	m2				
	型枠	打放し型枠	2.9	m2				
	運搬費		2.9	m2				
	鉄筋	D13　@150　ダブル	75.0	ｋｇ				
	加工組立費		75.0	ｋｇ				
	運搬費		75.0	ｋｇ				
	コンクリート	N21-15-25	0.95	m3				
	コンクリート打設費	小型構造物　人力	0.95	m3				
	コンクリート金ゴテ押え		1.9	m2				
	小　計							

直接工事費内訳書

番号	名称	形式・仕様・寸法	数量	単位	単価	金額	備考	特専工事
4	フェンス工事							
	メッシュフェンス	H1.2m	14.0	m				
	フェンス組立費		14.0	m				
	片開き門扉	H1.2*W0.9	1.0	ヶ所				
	門扉取付費		1.0	ヶ所				
	フェンス基礎工事		8.0	ヶ所				
	運搬費		1.0	式				
	小　計							